

問合わせ先

海上保安庁海洋情報部海洋調査課

課長補佐 富山 新一

電話 03-3541-3815 (内線621)

海上保安庁海洋情報部技術・国際課海洋研究室

研究官 及川 光弘

電話 03-3541-4387 (内線566)



平成22年2月1日

海上保安庁

海底の溶岩流がくっきり！

～山口県萩市沖の海底で火山活動の痕跡を発見～

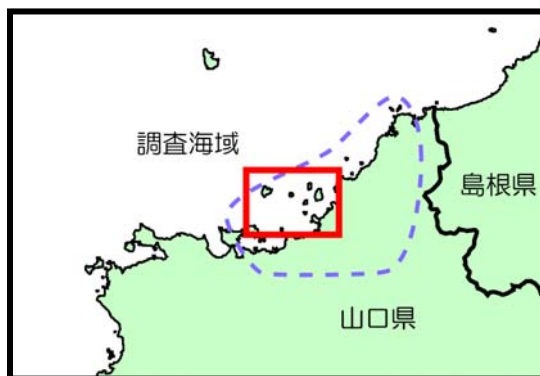
海上保安庁は、山口県萩市沖の海域において地形調査を実施し、初めて詳細な海底地形を明らかにするとともに、海底に眠る火山活動の痕跡を発見しました。

海上保安庁は平成21年7月から10月にかけて、山口県北部の萩市沖において、第七管区海上保安本部所属の測量船「はやしお」(船長 山口和人(やまぐちかずと))により、最新のマルチビーム音響測深機を用いた海底地形調査を行いました。

今回の調査海域である山口県北部には、多数の小さな火山からなる、「阿武火山群(あぶかざんぐん)」と呼ばれる活火山があります。阿武火山群は内陸部だけでなく、海域にも続いていると考えられており、萩市沖の島々も同火山群に含まれます。

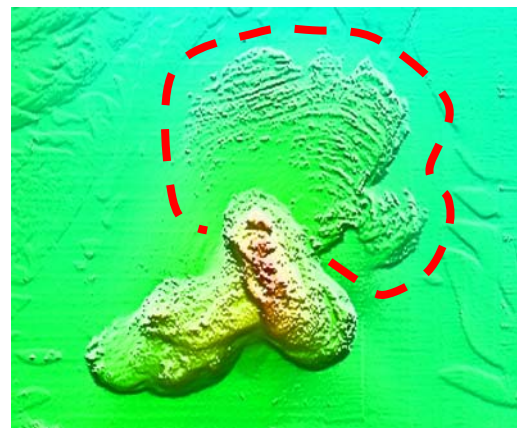
この海域における初めての詳細な海底地形調査によって、溶岩流や火口と考えられる凹地(おうち)等が多数発見される等、海底での火山活動の詳しい様相が明らかになりました。

今回の調査結果は、海上交通安全を確保するための基礎資料となるほか、同火山を研究する上でも非常に重要な資料となります。また、火山噴火予知のための基礎資料としての活用も期待されることから、2月2日の火山噴火予知連絡会に報告する予定です。

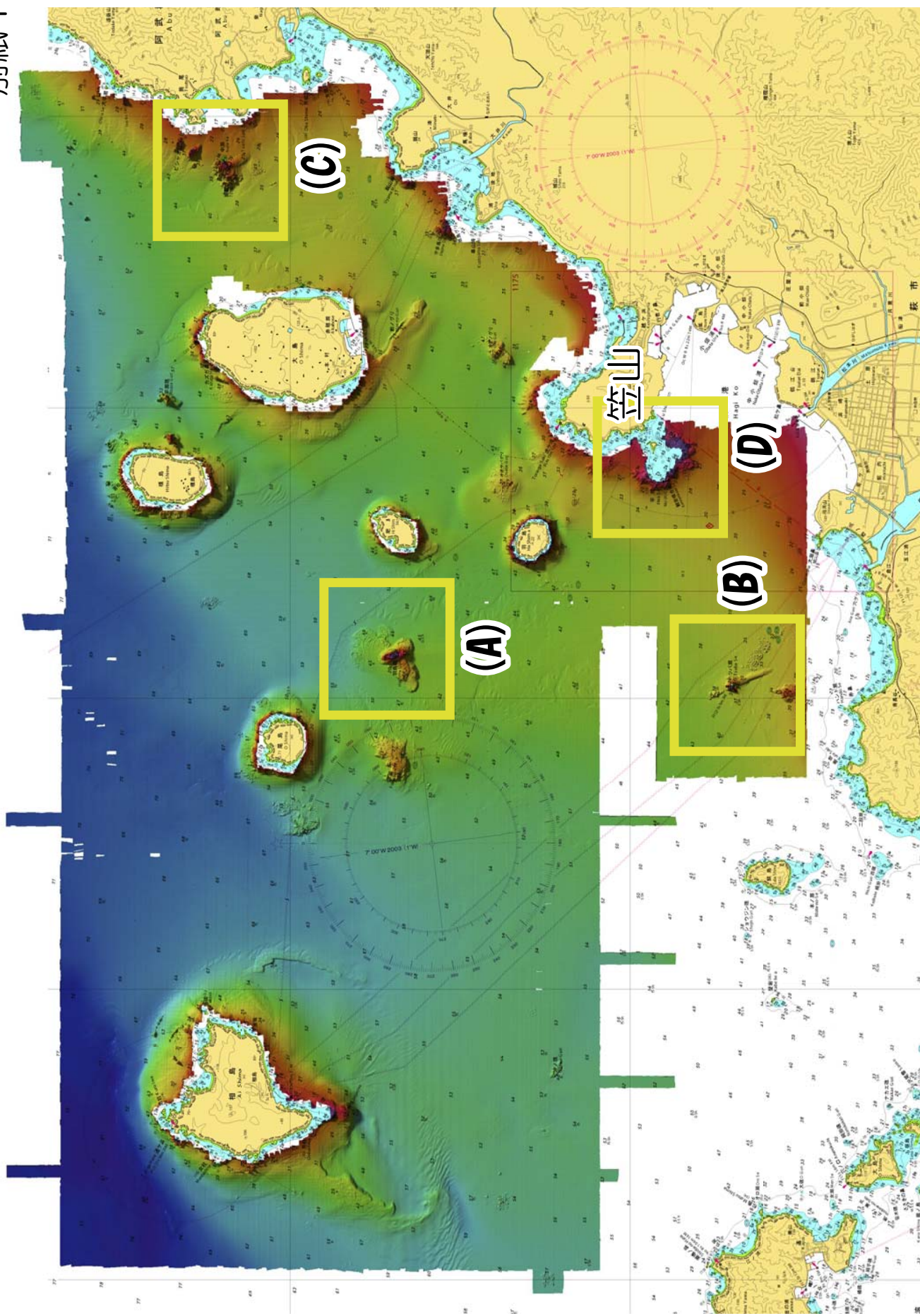


赤線 : 調査海域 山口県萩市沖

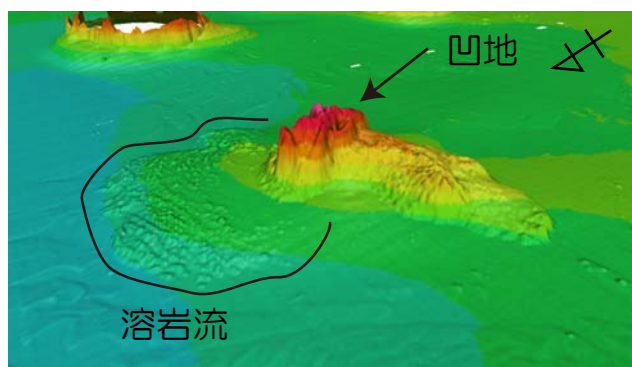
青破線 : 阿武火山群の大まかな範囲



溶岩流と思われる地形 (赤色破線)

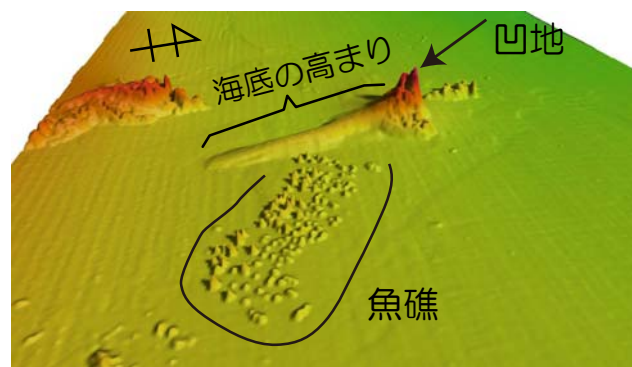


今回の調査で明らかにされた海底地形
別紙2で(A)-(D)の地形についての拡大図を示します。



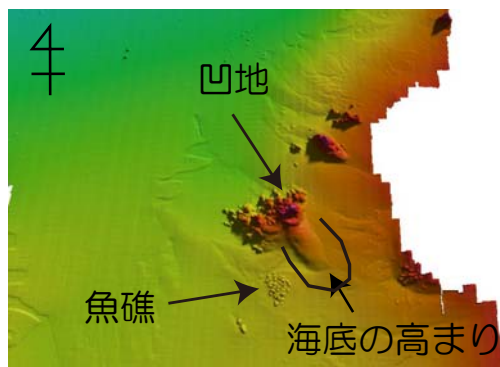
(A) 羽島礁（ハシマグリ）

海底で流れ出した溶岩流と思われる、皺状の地形がはっきりと見られます。また高まりの頂上には火口と思われる凹地が確認できました。



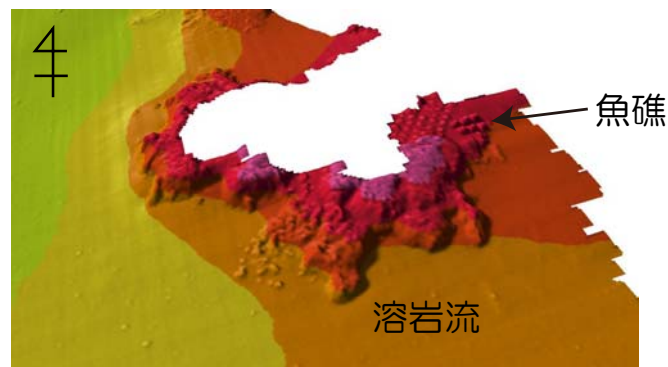
(B) ツバ瀬（ツバセ）

地下の火山活動による高まりが見られます。高まりの頂上付近に火口とおもわれる凹地が認められます。手前側にはたくさんの魚礁があります。



(C) 中瀬（ナカセ）

ツバ瀬と同様に、地下の火山活動による高まりがあり、高まりの頂上には火口と思われる凹地が認められます。



(D) 笠山の南西側

笠山の周囲の海岸には溶岩流が流れ出した地形がたくさんあります。今回の調査によって、笠山周辺の海底にも火山活動の痕跡がみつかりました。

解説

阿武火山群は、山口県北西部の萩市、山口市、阿武町に分布する40あまりの火山からなる単成火山群です。阿武火山群の、これまでに知られている最後の火山活動は約3000年前の笠山の噴火です。気象庁では、「概ね1万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山」を活火山と定義しているため、阿武火山群も活火山とされています。

今回の調査の結果、上図の(A)-(C)のような、海底における火山活動によると考えられる地形が多数見つかりました。今回見つかった海底の火山がいつ頃噴火したのか詳細はわかりませんが、地形の解析からその中の一部は約1万年前よりも新しいと考えられます。

阿武火山群において1万年よりも新しい時代の火山活動の情報は少なく、今回の調査結果は防災上も地球科学的にも重要な資料となります。



調査船艇	
測量船	はやしお
総トン数	約27トン
速力	約15ノット
乗組員	3名

用語の説明

- マルチビーム音響測深
広範囲に音波を発することにより、広範囲の海底地形を一度に測る技術（右図参照）。
- 活火山
概ね過去1万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山を活火山としています。（火山噴火予知連絡会及び気象庁による定義）
- 単成火山（群）
1回の噴火活動の結果生じた火山を、単成火山とよびます。それらがある一定の地域に複数形成されたものを単成火山群とよびます。日本には「単成火山である活火山」は、阿武火山群のほかには、静岡県伊豆東部火山群、長崎県福江火山群の3つしかありません。
- 火山噴火予知連絡会
文部省の測地学審議会（現文部科学省科学技術・学術審議会測地学分科会）の建議（昭和48年6月29日）に基づいて、火山に関する関係機関の研究及び業務に関する成果及び情報の交換、火山現象についての総合的判断を行うこと等を目的として設置された、学識経験者及び関係機関の専門家から構成される連絡会（事務局気象庁）。
連絡会は全国の火山活動について総合的に検討を行う他、火山噴火などの異常時には、臨時に幹事会や連絡会を開催し、火山活動について検討し、必要な場合は統一見解を発表するなどして防災対応に資する活動を行っています。

